

(社) 日本原子力学会 標準委員会  
第 32 回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2008 年 6 月 3 日 (火) 13:30～16:00
2. 場所 原子力安全基盤機構 本館 9 D, E 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)  
(出席委員) 駒田 (副部会長), 阿部, 荒木, 有富, 井口, 猪俣, 内山, 金木, 川上(泰),  
坂下, 高橋, 新堀, 西村, 濱田, 深澤, 堀川, 前川 (17 名)  
(代理出席委員) 栗山 (藤原幹事代理), 中久木 (有江代理), 加藤 (川上 (博) 代理), 角  
田 (仲神代理) (4 名)  
(欠席委員) 田中 (部会長), 小佐古, 長崎, 中島, 松尾, 森山 (6 名)  
(常時参加者) 菊池 (1 名)  
(欠席常時参加者) 池澤, 宮川 (2 名)  
(事務局) 岡村

4. 配付資料

配付資料

- |           |  |
|-----------|--|
| FTC32-1   | 第 31 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)                                  |
| FTC32-2   | 人事について (専門部会)  |
| FTC32-3   | 人事について (分科会)   |
| FTC32-4   | 標準委員会の活動状況   |
| FTC32-5-1 | 比較表「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準」(案)                          |
| FTC32-5-2 | 「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準」(案)                             |
| FTC32-6-1 | 比較表「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射<br>性廃棄物輸送容器定期点検基準」(案) |
| FTC32-6-2 | 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄<br>物輸送容器定期点検基準」(案)    |
| FTC32-7   | 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況                                       |

参考資料

- FTC32-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧  
FTC32-参考 2 標準委員会及び専門部会の今後のスケジュール(案)

## 5. 議事内容

### (1) 出席者の確認

27名の委員のうち、代理委員を含め21名の出席があり、成立に必要な委員数（18名）を満足している旨が事務局より報告された。

### (2) 前回議事録の確認

前回議事録（FTC32-1）が承認された。

### (3) 人事について

#### a. 専門部会人事（委員継続の承認）

事務局より、FTC32-2に沿って、川上 博人委員の退任が報告され、その後任として田中部会長より加藤 正美氏（原子力安全基盤機構）が推薦された旨紹介した。決議の結果、全会一致で承認された。また、引き続き任期満了の委員5人（堀川委員、内山委員、金木委員、深澤委員、西村委員）から委員継続の意志が示された旨説明し、決議の結果、それぞれ、全会一致で引き続き委員として選任された。

さらに、常時参加者として菊地 恂氏（原子力安全委員会事務局）より登録の希望があった旨紹介し、全会一致で承認された。

#### b. 分科会人事（委員退任の報告並びに新委員の承認）

事務局より、FTC32-3に沿って、輸送分科会の山本委員、小田野委員の退任が報告された。続いて、坂下 章氏（三菱重工業）、浅見 光史氏（海上技術安全研究所）が新委員として選任された旨説明し、全会一致で承認された。

### (4) 標準委員会の活動状況について

事務局より、FTC32-4に沿って、標準委員会の活動状況について、4/17の第31回標準委員会の状況、「余裕深度処分の安全評価手法（案）」の書面投票の結果について説明が行われた。

### (5) 「低レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準」（案）の本報告

輸送容器分科会川上委員より、FTC32-5-1, 2に基づき、中間報告時点からの主な変更点を中心に、標準の説明が行われた。審議の後、書面投票への移行について決議を行い、本日指摘された部分を修正した上で書面投票を行うことが承認された。

主な質疑等：

- ・ BM型，BU型の定義が必要ではないか。
  - 法令で決められた名称である。
  - 3.7 輸送物の定義に追記してはどうか。
- ・ 本文の後ろに参考文献が残っているが、この場所で良いのか。

- 検討する。
- ・ 4.2.3 設計基準のソースタームの計算で、揮発性核種をエアロゾルとして扱うとしているが、エアロゾルより揮発性核種の方が拡散しやすいのではないかと。
  - 検討したい。
- ・ 揮発性核種として、ラドン等の娘核種等を考えなくて良いのか。
  - 確認する。
- ・ 余裕深度処分の定義は古い。安全評価手法の標準と合わせること。

(6) 「使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物・低レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準（改定版）」（案）の本報告

輸送容器分科会広瀬委員より、FTC32-6-1,2に沿って、標準の改定内容について説明が行われた。審議の後、書面投票への移行について決議を行い、本日指摘された部分を修正した上で書面投票を行うことが承認された。

主な質疑等：

- ・ 適用範囲で、中間貯蔵施設用金属キャスクを除くとなっているが、輸送貯蔵兼用キャスクのことか。
  - 長期貯蔵するキャスクは本標準にはなじまない。別の標準で実施することとなっている。
  - わかりやすさの観点から、輸送貯蔵兼用といった表現を加えてはどうか。
- ・ 附属書B)の輸送前検査で、「収納物を収納して輸送容器を使用する前に輸送前検査を行う。」となっているが、収納物を収納して行うのか空なのか分からない。
  - 実際は収納しない状態で行う。表現を見直す。

(7) 分科会の活動概況について (FTC32-7)

事務局より、前回専門部会以降に行われた各分科会の活動状況について報告が行われた。

主な質疑等：

- ・ 浅地中ピット処分の廃棄物にも、LLW輸送容器の対象となるものがある。廃棄体の標準策定においては、輸送容器に収まるよう寸法等には配慮して欲しい。
  - 当面、余裕深度処分対象廃棄体を優先している。浅地中ピット処分については当分先だが記憶しておく。

6. 今後の予定

次回専門部会は、7/14（月）に行うこととした。（その後の調整により、7/15（火）に変更。）

以上